

交通事故の被害・損失の経済的分析に
関する調査

報 告 書

平成 29 年 3 月

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

目 次

1	業務概要	1
1.1	業務の背景と目的	1
1.2	業務の構成	2
2	平成 27 年度調査の結果	3
2.1	平成 23 年度調査の課題の整理	3
2.2	平成 23 年度調査の課題への対応方法の検討	4
2.2.1	対応方法の検討	4
2.2.2	調査の方法	5
2.3	検討結果	13
2.3.1	死亡損失(確率 CV 法)に関する検討	13
2.3.2	負傷損失 (SG 法) に関する検討	37
2.3.3	負傷損失 (確定 CV 法) に関する検討	50
2.3.4	負傷損失に関する検討	62
2.4	平成 27 年度調査より得られた課題	67
3	非金銭的損失の算出	69
3.1	プレ調査について	69
3.1.1	平成 27 年度調査の課題への対応方法の検討	69
3.1.2	プレ調査の方法	72
3.1.3	検討結果	73
3.1.4	プレ調査より得られた課題	117
3.2	本調査について	119
3.2.1	プレ調査の課題への対応方法の検討	119
3.2.2	本調査の方法	120
3.2.3	検討結果	121
3.3	非金銭的損失の算出について	167
3.3.1	死傷者数	167
3.3.2	損失額	168
4	金銭的損失の算出	170
4.1	算定手法について	170
4.1.1	利用データ	170
4.1.2	人的損失	173
4.1.3	物的損失	175
4.1.4	事業主体の損失	176
4.1.5	各種公的機関等の損失	177
4.2	金銭的損失の算出	179
5	交通事故の被害・損失の経済的分析結果のまとめ	181
5.1	国内外における交通事故による損失の算定	181
5.1.1	国内の検討状況について	181
5.1.2	海外の検討状況について	182
5.2	交通事故の被害・損失の経済的分析	187
5.2.1	損失額	187
5.2.2	海外との比較	189
6	今後の検討方法	191
6.1	死亡損失・負傷損失の算出方法	191
6.2	調査実施時の留意点	194

6.2.1 共通	194
6.2.2 死亡損失について.....	194
6.2.3 負傷損失について.....	194
7 検討会の開催	195
7.1 委員の構成.....	195
7.2 スケジュール.....	195
参考資料	197

目次

図 1.1-1	調査の経緯	1
図 1.2-1	業務の検討フロー	2
図 2.2-1	負傷区分の設定	8
図 2.3-1	パターン1『保険』(削減率25%)の非理解回答率(%)	17
図 2.3-2	パターン1『保険』(削減率25%)の抵抗回答率(%)	17
図 2.3-3	パターン2『保険』(削減率50%)の非理解回答率(%)	18
図 2.3-4	パターン2『保険』(削減率50%)の抵抗回答率(%)	18
図 2.3-5	パターン3『安全グッズ』(削減率50%)の非理解回答率(%)	18
図 2.3-6	パターン3『安全グッズ』(削減率50%)の抵抗回答率(%)	19
図 2.3-7	パターン4『申込手数料』(削減率50%)の非理解回答率(%)	19
図 2.3-8	パターン4『申込手数料』(削減率50%)の抵抗回答率(%)	19
図 2.3-9	世帯年収別支払意思額中央値	31
図 2.3-10	死亡対負傷の望ましさ選択比の平成23年度調査との比較	40
図 2.3-11	負傷状態の理解度	40
図 2.3-12	設問別の「わかりにくかった箇所」	41
図 2.3-13	「死亡より提示した負傷状態の方がマシな(望ましい)状態である回答者の場合」のSG法の設問構造(負傷区分Qの例)	42
図 2.3-14	「提示した負傷状態より死亡の方がマシな(望ましい)状態である回答者の場合」のSG法の設問構造(負傷区分Qの例)	43
図 2.3-15	負傷区分Qの代替率別サンプル数ヒストグラム(単位:人)	46
図 2.3-16	負傷状態の理解度	51
図 2.3-17	設問別の「わかりにくかった箇所」	52
図 2.3-18	負傷カードイメージ(負傷区分Q)	62
図 2.3-19	負傷区分の設定	63
図 2.3-20	アンケートの質問の分量	65
図 3.1-1	パターン1『安全グッズ』(削減率25%)の非理解回答率(%)	75
図 3.1-2	パターン1『安全グッズ』(削減率25%)の抵抗回答率(%)	76
図 3.1-3	パターン2『安全グッズ』(削減率50%)の非理解回答率(%)	76
図 3.1-4	パターン2『安全グッズ』(削減率50%)の抵抗回答率(%)	76
図 3.1-5	プレ調査における負傷区分の設定	82
図 3.1-6	平成27年度調査における負傷区分の設定	82
図 3.1-7	カードの配置画面	91
図 3.1-8	カードの点数付け画面	91
図 3.1-9	死傷区分別順位	92
図 3.1-10	死傷区分別得点	93
図 3.1-11	負傷状況の理解度	94
図 3.1-12	死傷区分別順位(死傷状況を理解したサンプルn=3,680)	94
図 3.1-13	死傷区分別得点(死傷状況を理解したサンプルn=3,680)	95
図 3.1-14	死亡対負傷の望ましさ比率	98
図 3.1-15	負傷区分別の理解度	99
図 3.1-16	負傷区分別の「わかりにくかった箇所」	99
図 3.1-17	プレ調査の代替率の賛成率曲線	102
図 3.1-18	プレ調査の代替率の賛成率曲線(対数表示)	102
図 3.1-19	プレ調査の代替率の分布	103
図 3.1-20	平成27年度調査における代替率の分布	104
図 3.1-21	負傷区分別負傷状態の理解度	109

図 3.1-22	負傷区分別の「わかりにくかった箇所」	109
図 3.1-23	負傷損失の比較	116
図 3.2-1	『安全グッズ』(削減率 50%) の非理解回答率 (%)	123
図 3.2-2	『安全グッズ』(削減率 50%) の抵抗回答率 (%)	123
図 3.2-3	本調査における負傷区分の設定	129
図 3.2-4	プレ調査における負傷区分の設定	129
図 3.2-5	カードの配置画面	137
図 3.2-6	死傷区分別順位	138
図 3.2-7	プレ調査の死傷区分別順位	139
図 3.2-8	代替率の分布	147
図 3.2-9	代替率の分布 (対数表示)	148
図 3.2-10	本調査の代替率の分布	149
図 3.2-11	プレ調査の代替率の分布	149
図 3.2-12	平成 27 年度調査の代替率の分布	150
図 3.2-13	死傷損失額	162
図 3.2-14	QALY の算出の考え方	166
図 4.2-1	金銭的損失額	180
図 5.2-1	交通事故による損失額	188
図 5.2-2	交通事故による損失額	188
図 6.1-1	負傷区分の設定	191

表 目次

表 2.1-1	平成 23 年度調査における検討内容と抽出された課題	3
表 2.2-1	平成 27 年度調査における課題等への対応.....	4
表 2.2-2	WTP をインターネットで実施することの妥当性に関する研究事例.....	5
表 2.2-3	サンプル数	6
表 2.2-4	提示金額の組合せパターン	6
表 2.2-5	サンプル数	7
表 2.2-6	傷害度の定義 (AIS 水準)	9
表 2.2-7	サンプル数	9
表 2.2-8	各負傷区分の内容	10
表 2.2-9	サンプル数	12
表 2.3-1	死亡損失 (確率 CV 法) の対象財と死亡リスク削減率	13
表 2.3-2	男女比率.....	13
表 2.3-3	年齢階層別構成比	14
表 2.3-4	『保険』(パターン 1、2) で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由	14
表 2.3-5	『保険』(パターン 1、2) で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由	15
表 2.3-6	『安全グッズ』(パターン 3) で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由	15
表 2.3-7	『安全グッズ』(パターン 3) で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由	15
表 2.3-8	『申込手数料』(パターン 4) で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由	15
表 2.3-9	『申込手数料』(パターン 4) で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由	16
表 2.3-10	有効回答と抵抗・非理解回答の比率	16
表 2.3-11	平成 23 年度調査の有効回答と抵抗・非理解回答の比率	16
表 2.3-12	パターン 1 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数.....	21
表 2.3-13	パターン 1 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数 (抵抗・非理解回答排除) ..	21
表 2.3-14	パターン 1 のロジットモデルパラメータおよび推計結果	22
表 2.3-15	パターン 2 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数.....	22
表 2.3-16	パターン 2 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数 (抵抗・非理解回答排除) ..	22
表 2.3-17	パターン 2 のロジットモデルパラメータおよび推計結果	23
表 2.3-18	パターン 3 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数.....	23
表 2.3-19	パターン 3 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数 (抵抗・非理解回答排除) ..	23
表 2.3-20	パターン 3 のロジットモデルパラメータおよび推計結果	24
表 2.3-21	パターン 4 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数.....	24
表 2.3-22	パターン 4 の提示金額別賛成 / 反対サンプル数 (抵抗・非理解回答排除) ..	24
表 2.3-23	パターン 4 のロジットモデルパラメータおよび推計結果	25
表 2.3-24	設問別支払意思額まとめ	25
表 2.3-25	設問別死亡損失額原単位推計結果.....	26
表 2.3-26	死亡リスク削減率別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (削減率 25% 対 削減率 50%)	27
表 2.3-27	男女別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『保険料』)	28
表 2.3-28	男女別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『安全グッズ』)	28
表 2.3-29	男女別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『手数料』)	29
表 2.3-30	年齢階層別死亡損失支払意思額推計結果.....	30
表 2.3-31	平成 23 年度調査年齢階層別死亡損失支払意思額推計結果	30
表 2.3-32	想定状況別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『保険料』)	32
表 2.3-33	想定状況別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『安全グッズ』)	33
表 2.3-34	想定状況別ダミー変数を用いたモデル式パラメータ (『手数料』)	33
表 2.3-35	分かりにくさダミー変数を用いたパラメータ (『保険料』)	34

表 2.3-36	分かりにくさダミー変数を用いたパラメータ（『安全グッズ』）	34
表 2.3-37	分かりにくさダミー変数を用いたパラメータ（『手数料』）	35
表 2.3-38	死亡損失に関する明らかとなった課題	36
表 2.3-39	負傷区分の設定	37
表 2.3-40	男女比率	37
表 2.3-41	年齢階層構成比率	38
表 2.3-42	死亡対負傷の望ましさ比率	39
表 2.3-43	設問別 5%裾きり基準の代替率	44
表 2.3-44	負傷区分別代替率推計結果	45
表 2.3-45	死亡対負傷の望ましさ選択比率	47
表 2.3-46	明らかとなった課題	49
表 2.3-47	負傷区分の設定	50
表 2.3-48	男女比率	50
表 2.3-49	年齢階層構成比率	51
表 2.3-50	負傷区分の設定（再掲）	53
表 2.3-51	支払意思額推計結果（推計ロジック（その 1））	54
表 2.3-52	負傷区分 R の支払意思額推計結果（対数ロジットモデル）	54
表 2.3-53	負傷区分 Y の支払意思額推計結果（対数ロジットモデル）	54
表 2.3-54	負傷区分 I の支払意思額推計結果（対数ロジットモデル）	55
表 2.3-55	負傷区分 O の支払意思額推計結果（対数ロジットモデル）	55
表 2.3-56	負傷区分 A の支払意思額推計結果（対数ロジットモデル）	55
表 2.3-57	負傷区分別支払意思額まとめ	56
表 2.3-58	平成 23 年度調査の支払意思額	56
表 2.3-59	男女別負傷損失支払意思額推計結果	57
表 2.3-60	年齢階層別負傷損失支払意思額推計結果	58
表 2.3-61	世帯年収別負傷損失支払意思額推計結果	59
表 2.3-62	分かりにくさ別負傷損失支払意思額推計結果	60
表 2.3-63	明らかとなった課題	61
表 2.3-64	死傷損失額の総額の推計（平成 23 年度調査）	64
表 2.3-65	死傷損失額の総額の推計（死亡損失額補正）	64
表 2.3-66	得られた課題	66
表 2.4-1	平成 27 年度調査より得られた課題（その 1）	67
表 2.4-2	平成 27 年度調査より得られた課題（その 2）	68
表 3.1-1	プレ調査での対応（その 1）	69
表 3.1-2	プレ調査での対応（その 2）	70
表 3.1-3	プレ調査での対応（その 3）	71
表 3.1-4	プレ調査の方法	72
表 3.1-5	死亡に関する設問と負傷に関する設問の組合せとサンプル数	72
表 3.1-6	死亡損失（確率 CV 法）の対象財と死亡リスク削減率	73
表 3.1-7	男女比率	73
表 3.1-8	年齢階層構成比	74
表 3.1-9	『安全グッズ』（パターン 1、2）で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由	74
表 3.1-10	『安全グッズ』（パターン 1、2）で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由	74
表 3.1-11	プレ調査の有効回答と抵抗・非理解回答の比率	75
表 3.1-12	平成 27 年度調査の有効回答と抵抗・非理解回答の比率	75
表 3.1-13	平成 23 年度調査の有効回答と抵抗・非理解回答の比率	75

表 3.1-14	設問別の「わかりにくかった箇所」(複数回答)	77
表 3.1-15	説明文を読むのに要した時間分布	77
表 3.1-16	金額組合せパターン	78
表 3.1-17	提示金額別賛成/反対サンプル数	78
表 3.1-18	提示金額別賛成/反対サンプル数(抵抗・非理解回答排除)	79
表 3.1-19	ロジットモデルパラメータおよび推計結果	79
表 3.1-20	提示金額別賛成/反対サンプル数	79
表 3.1-21	提示金額別賛成/反対サンプル数(抵抗・非理解回答排除)	80
表 3.1-22	ロジットモデルパラメータおよび推計結果	80
表 3.1-23	支払意思額まとめ	80
表 3.1-24	死亡損失額の推計結果	81
表 3.1-25	平成 27 年度調査の支払意思額	81
表 3.1-26	平成 27 年度調査の死亡損失額の推計結果	81
表 3.1-27	各負傷区分の設定	83
表 3.1-28	順位別回答比率	92
表 3.1-29	死亡より順位が低い件数	93
表 3.1-30	説明文を読むのに要した時間分布	95
表 3.1-31	負傷区分の設定	96
表 3.1-32	男女比率	96
表 3.1-33	年齢階層構成比	97
表 3.1-34	平成 27 年度調査の死亡対負傷の望ましさ比率	98
表 3.1-35	平成 23 年度調査の死亡対負傷の望ましさ比率	98
表 3.1-36	説明文を読むのに要した時間分布	100
表 3.1-37	プレ調査の代替率	103
表 3.1-38	負傷区分の設定	105
表 3.1-39	男女比率	105
表 3.1-40	年齢階層構成比	106
表 3.1-41	負傷区分 Y~A で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由	106
表 3.1-42	負傷区分 Y~A で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由	107
表 3.1-43	有効回答と抵抗・非理解回答の比率	107
表 3.1-44	負傷区分 Y の非理解回答率	107
表 3.1-45	負傷区分 Y の抵抗回答率	107
表 3.1-46	負傷区分 O の非理解回答率	108
表 3.1-47	負傷区分 O の抵抗回答率	108
表 3.1-48	負傷区分 A の非理解回答率	108
表 3.1-49	負傷区分 A の抵抗回答率	108
表 3.1-50	説明文を読むのに要した時間分布	110
表 3.1-51	金額組合せパターン	111
表 3.1-52	提示金額別賛成/反対サンプル数	111
表 3.1-53	提示金額別賛成/反対サンプル数(抵抗・非理解回答排除)	111
表 3.1-54	負傷区分 Y の支払意思額推計結果	112
表 3.1-55	提示金額別賛成/反対サンプル数	113
表 3.1-56	提示金額別賛成/反対サンプル数(抵抗・非理解回答排除)	113
表 3.1-57	負傷区分 O の支払意思額推計結果	113
表 3.1-58	提示金額別賛成/反対サンプル数	114
表 3.1-59	提示金額別賛成/反対サンプル数(抵抗・非理解回答排除)	114
表 3.1-60	負傷区分 A の支払意思額推計結果	114
表 3.1-61	負傷区分別支払意思額まとめ	115

表 3.1-62	平成 23 年度調査支払意思額.....	115
表 3.1-63	平成 27 年度調査の負傷区分別支払意思額まとめ.....	115
表 3.1-64	負傷損失の方法別比較.....	116
表 3.1-65	プレ調査より得られた示唆（その 1）.....	117
表 3.1-66	プレ調査より得られた示唆（その 2）.....	118
表 3.1-67	プレ調査の課題.....	118
表 3.2-1	プレ調査の課題と本調査での対応.....	119
表 3.2-2	本調査の方法.....	120
表 3.2-3	死亡損失（確率 CV 法）の対象財と死亡リスク削減率.....	121
表 3.2-4	男女比率.....	121
表 3.2-5	年齢階層構成比.....	121
表 3.2-6	『安全グッズ』で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由.....	122
表 3.2-7	『安全グッズ』で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由.....	122
表 3.2-8	有効回答と抵抗・非理解回答の比率.....	122
表 3.2-9	説明文を読むのに要した時間分布.....	124
表 3.2-10	金額組合せパターン.....	125
表 3.2-11	提示金額別賛成 / 反対サンプル数.....	125
表 3.2-12	提示金額別賛成 / 反対サンプル数（抵抗・非理解回答排除）.....	126
表 3.2-13	対数ロジットモデルパラメータおよび推計結果.....	126
表 3.2-14	支払意思額まとめ.....	127
表 3.2-15	死亡損失額原単位推計結果.....	128
表 3.2-16	各負傷区分の負傷状態.....	130
表 3.2-17	順位別回答比率.....	139
表 3.2-18	プレ調査の順位別回答比率.....	140
表 3.2-19	死亡より順位が低い件数.....	140
表 3.2-20	プレ調査の死亡より順位が低い件数.....	140
表 3.2-21	負傷カードのランキングの時間分布.....	140
表 3.2-22	負傷区分の設定.....	141
表 3.2-23	男女比率.....	142
表 3.2-24	年齢階層構成比.....	142
表 3.2-25	本調査の死亡対負傷の望ましさ選択比.....	143
表 3.2-26	プレ調査の死亡対負傷の望ましさ選択比.....	143
表 3.2-27	平成 27 年度調査の死亡対負傷の望ましさ選択比.....	144
表 3.2-28	平成 23 年度調査の死亡対負傷の望ましさ選択比.....	144
表 3.2-29	説明文を読むのに要した時間分布.....	145
表 3.2-30	本調査の代替率.....	148
表 3.2-31	プレ調査の代替率.....	148
表 3.2-32	負傷区分とその概要.....	151
表 3.2-33	男女比.....	151
表 3.2-34	年齢階層構成比.....	152
表 3.2-35	負傷区分 Y ~ A で提示額に 1 回でも賛成した場合の賛成理由.....	152
表 3.2-36	負傷区分 Y ~ A で提示額に 2 回とも反対した場合の反対理由.....	152
表 3.2-37	有効回答と抵抗・非理解回答の比率.....	153
表 3.2-38	プレ調査の有効回答と抵抗・非理解回答の比率.....	153
表 3.2-39	負傷区分 Y の非理解回答の比率.....	153
表 3.2-40	負傷区分 Y の抵抗回答の比率.....	153
表 3.2-41	負傷区分 O の非理解回答の比率.....	154
表 3.2-42	負傷区分 O の抵抗回答の比率.....	154

表 3.2-43	負傷区分 A の非理解回答の比率	154
表 3.2-44	負傷区分 A の抵抗回答の比率	154
表 3.2-45	説明文を読むのに要した時間分布	155
表 3.2-46	金額組合せパターン（負傷区分 Y～O）	156
表 3.2-47	金額組合せパターン（負傷区分 A）	156
表 3.2-48	提示金額別賛成 / 反対サンプル数	156
表 3.2-49	提示金額別賛成 / 反対サンプル数（抵抗・非理解回答排除）	157
表 3.2-50	負傷区分 Y の支払意思額推計結果	157
表 3.2-51	提示金額別賛成 / 反対サンプル数	158
表 3.2-52	提示金額別賛成 / 反対サンプル数（抵抗・非理解回答排除）	158
表 3.2-53	負傷区分 O の支払意思額推計結果	158
表 3.2-54	提示金額別賛成 / 反対サンプル数	159
表 3.2-55	提示金額別賛成 / 反対サンプル数（抵抗・非理解回答排除）	159
表 3.2-56	負傷区分 A の支払意思額推計結果	159
表 3.2-57	本調査の負傷区分別支払意思額	160
表 3.2-58	プレ調査の負傷区分別支払意思額	160
表 3.2-59	平成 27 年度調査の負傷区分別支払意思額	160
表 3.2-60	平成 23 年度調査の負傷区分別支払意思額	160
表 3.2-61	1 名当たりの死傷損失額	161
表 3.2-62	自賠責保険の後遺障害の等級別認定件数の構成比（平成 26 年度）	163
表 3.2-63	後遺障害別等級（別表第一（介護を要する後遺障害））別保険金の上限	163
表 3.2-64	後遺障害別等級（別表第二（後遺障害））別保険金の上限	163
表 3.2-65	負傷区分 O の 1 名当たりの損失額	164
表 3.2-66	1 名当たりの死傷損失額（設定値）	164
表 3.2-67	後遺障害別等級表（別表第二（後遺障害））	165
表 3.2-68	負傷カードの日本語版 EQ-5 D の 5 項目法による効用	166
表 3.3-1	死傷者数	167
表 3.3-2	自賠責保険の後遺障害の等級別認定件数の構成比（平成 26 年度）	167
表 3.3-3	負傷区分別の負傷者数（平成 26 年度）	167
表 3.3-4	死傷損失額の総額の推計（本調査）	168
表 3.3-5	死傷損失額の総額の推計（平成 23 年度調査）	169
表 4.1-1	利用データ	170
表 4.1-2	事業主体の損失の算定方法	176
表 4.1-3	各種公的機関等の損失の算定方法	177
表 4.2-1	金銭的損失額（百万円）	179
表 4.2-2	死亡・後遺障害・傷害別の金銭的損失額（百万円）	179
表 4.2-3	被害者 1 名（損害物 1 件）当たり金銭的損失額（千円）	179
表 5.1-1	我が国における交通事故による経済損失の検討状況	181
表 5.1-2	海外各国における死亡損失算定額と算定方法	182
表 5.1-3	海外各国における負傷損失算定額と算定方法	183
表 5.1-4	平成 27 年度調査および本調査で用いた海外の関連資料・文献	184
表 5.1-5	海外各国における死亡損失の算定	185
表 5.1-6	海外各国における負傷損失の算定	186
表 5.2-1	交通事故による損失額（平成 26 年度）（十億円）	187
表 5.2-2	交通事故による損失額（平成 21 年度）（十億円）	187
表 5.2-3	各国における 1 名あたり死亡損失額の算定状況	189
表 5.2-4	各国における負傷損失算定額の算定状況	190
表 6.1-1	今回の調査方法	191

表 6.1-2	各負傷区分の負傷状態	192
表 6.1-3	死亡に関する設問と負傷に関する設問の組合せとサンプル数	193
表 7.1-1	検討会委員(敬称略).....	195
表 7.2-1	スケジュール.....	195

用語集

(印を付したものは本報告書で定義した用語。印のないものは一般的な用語)

用語	意味
各種公的機関等の損失	交通事故に関連して発生する社会福祉費用、救急費用、車両・医療設備費用、裁判費用、保険運営費といった各種公的機関等において発生する損失のこと。
確定CV法	確定的な状態の変化(例えば交通事故で被った負傷が治癒する、など)に対する「WTP」や「WTA」を尋ねる「CV法」のこと。
確率CV法	確率的な状態の変化(例えば交通事故に遭う確率が %低下する、など)に対する「WTP」や「WTA」を尋ねる「CV法」のこと。
金銭的損失	道路交通事故の発生により、個人等の身体や財物が物理的な損傷を被ることによって発生する損失のこと。人的損失、物的損失、事業主体の損失、各種公的機関等の損失からなる。
事業主体の損失	被害者が死亡あるいは負傷することによって、被害者の勤める事業主体において発生する損失のこと。被害者の生産活動による付加価値から人件費相当分を除いたもの。
死傷損失	「非金銭的損失」のうち、交通事故の発生により、被害者が死亡あるいは負傷することによって、被害者本人が被る痛み、苦しみ、悲しみ、生活の質の低下および生きる喜びを全くあるいは十分に享受できなくなる損失のこと。
死亡損失	「死傷損失」のうち、死亡による損失のこと。
受容バイアス	CV法の支払賛否を尋ねる質問において、回答者が、提示額に関わりなく支払いに賛成しがちになる傾向のこと。Yea-sayingバイアスとも言う。受容バイアスが生じている場合、WTPは過大評価になる恐れがある。
順序バイアス	CV法などのアンケート調査で、質問順によって回答結果が変わること。また、それによって生じる結果のゆがみ。
人的損失	人的資源の滅失、価値の低下による損失のこと。治療関係費、休業損失、慰謝料、逸失利益等からなる。
スコープテスト	評価結果の信頼性を検証するため、評価対象が変化したときに評価額が変化するかを確認すること。
代替率	SG法で交通事故による負傷損失額を算定する際に用いる。代替率は、死亡と負傷の価値の比率。
多段階二項選択方式	CV法でWTPを把握するための質問方式の一種。提示した金額に対する支払賛否を1人の回答者に複数回尋ねる。1回目の提示額(初期提示額)を低い額とし、徐々に提示額を高くしながら、複数回の支払賛否を尋ねる方法がよく用いられる。
ターンブルモデル	分布関数を特定せずにWTPを推定する手法の一つ。生物統計学や経営工学で使われる統計手法である生存分析が用いられる。
抵抗回答	評価対象に対して真の支払意思額を持っているが、違う評価対象に対する金額の回答や支払い方法が嫌なので支払わない等といった、評価対象に対する評価を適切に表明していない回答。
二段階二項選択方式	CV法でWTPを把握するための質問方式の一種。提示した金額に対する支払賛否を1人の回答者に2回尋ねる。1回目の提示額(初期提示額)に対する支払賛否を聞いたあと、賛成者には初期提示額より高い提示額を、反対者にはより低い提示額を再度示して、2回目の支払賛否を尋ねる。
バイアス	CV法などのアンケート調査で、調査方法や質問の仕方などが、回答結果に与えるゆがみのこと。

用語	意味
非金銭的損失	道路交通事故の発生により、個人等の身体や財物が物理的な損傷を被ることによって発生する、被害者の肉体的な痛みや苦しみ、被害者の家族および友人の精神的な苦痛や悲しみ、さらには加害者並びにその家族および友人の心理的負担など、金銭的資源の消費、滅失および性能低下以外の損失のこと。
負傷損失	「死傷損失」のうち、負傷による損失のこと。
物的損失	物的資源の滅失、価値の低下による損失のこと。車両、構築物の修理、修繕、弁償費用からなる。
メタ分析	複数の調査事例の分析結果を用いて行う分析のこと。
AIS (Abbreviated Injury Scale)	解剖学的重症度のこと。交通事故その他による外傷的な損傷の程度をスコア化したもの。米国自動車医学振興協会 (Association for the Advancement of Automotive Medicine: AAAM) が1971年に初めて発表して以来、改訂が重ねられている。
CVM	仮想市場評価法 (Contingent Valuation Method) のこと。アンケートを用いて、状況の改善に対する「WTP」や、状況の悪化等に対する「WTA」を一般市民などに尋ねることによって、改善による便益や悪化による損失を推計する方法。
QOL	生活の質 (Quality of Life) のこと。健康関連のアウトカムとして用いられる場合は、患者の肉体的・精神的な健康を構成する要素とその程度を表す。
QALY	質調整年数 (QALY (Quality Adjusted Life Years)) で、生存年数と生活の質QOLの双方を考慮した指標。
RS法	ランキング・スケーリング法のこと。ある状態を示す複数のカードを、望ましい順に並べ (ランキング) それを目盛りの付いた数直線上に並べること等により点数付けする (スケーリング) ことで、各状態の相対的な大小関係を数値化する方法。
SG法	スタンダード・ギャンブル法 (Standard Gamble Method) のこと。負傷の評価に例えると、なんらかの確実な結果を生む「通常の治療」に対して、成功すれば健康状態に戻れるが失敗すれば「通常の治療」を受けよりも望ましくない結果を生むという「特別な治療」があると仮定し、「特別な治療」の失敗確率 (成功確率) がどの程度であれば、「特別な治療」と「通常の治療」が無差別になるかをアンケートによって尋ねることによって、負傷の相対的な重みを推定する方法。
VSL	統計的生命価値 (Value of Statistical Life) のこと。確率的生命価値とも呼ぶ。死亡リスクの微少な削減に対する「WTP」を、リスクの変化量で割ることによって求められる。
WTA	受入補償額 (Willingness to Accept) のこと。政策などによる状態の悪化を受け入れるために最小限必要と考える補償額。
WTP	支払意思額 (Willingness to Pay) のこと。政策などによる状態の改善に対して最大限支払ってもよいと考える金額